

当委員会が出された意見を基にした今後の方策

- ①メール便の重要性と今後の方策  
⇒土日、祝日を含めたメール便運行の検討
- ②予約貸出の定着化と可能性  
⇒利用者のアクセスポイント(本の受取や返却ができる場所)の検討
- ③非来館型図書館の可能性  
⇒小・中・高生や高齢者のために、自宅に近寄るサービスの検討(本の宅配サービス等)
- ④市立図書館と学校図書館との連携  
⇒ブックトーク、ビブリオバトルなどに加えて、市立図書館を使った調査探求的学習イベントの検討
- ⑤小・中・高生の図書館利用率の向上、高齢者の利便性を向上  
⇒電子図書館の導入(小中高生には、ライトノベルやマンガ) ※ライトノベル…10代向けの娯楽小説
- ⑥図書資料の充実・強化  
⇒地域資料の網羅的収集。何人かで集まって利用する調べ学習用資料の充実

## 当委員会で出された、これからの図書館の機能

- ①サービスを一つの図書館で行う場合は、最低でも床面積が400㎡必要。
- ②図書館らしさを保つには、床面積が、700㎡~1,000㎡必要。
- ③図書館の所在する地区内の利用者よりも当該地区以外の利用者(割合)が多い図書館が魅力のある図書館。
- ④自宅に居ながら又は小さなサロン(談話スペース)などで学び直しができる環境が必要。
- ⑤同じ本を揃えた図書館ではなく、特色ある図書館(蔵書)が必要。
- ⑥図書館は、小・中・高生から大人まで、静かに学習できるスペース(居場所)が必要。
- ⑦地域の活性化、地域の生涯学習の拠点となるような多目的施設や多目的スペースが必要。
- ⑧駅に近く、中・高生が帰宅時に利用できる場所も必要。
- ⑨就学前の乳幼児に対する読書の推進及び読書の機会の提供